

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際学研究入門	国際学研究科目 共通科目	1	2	国際学の学問的領域と修士論文の要諦について講義するとともに、国際学にかかわる基本的な文献を講読する。また、広く学術論文の意味、注意すべき点、理解の仕方、書き方などを修得するため、教員の講義と学生の演習を組み合わせた授業を展開する。なお、学部時代に卒業論文を課せられなかった学生、学部時代は他の分野での学修を主とした学生のためにも、基礎的な事柄を重視して授業を進めていく。	国際学の学問的領域について理解し、研究上の問題意識を養ったうえで、修士論文の作成法について十分に理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	国際学の学問的領域について理解し、研究上の問題意識を養ったうえで、修士論文の基本的な作成法について理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
国際学総合研究	国際学研究科目 共通科目	2	2	国際学にかかわる多様な文献を講読し、その内容を報告し、それに対する質疑応答を行い、理解を深める。学生はすでに1年次において指導教員が担当する「国際学演習II」国際学演習II」を履修し、修士論文の作成に向けて一歩を踏み出しているが、各自の研究を研究分野の異なる教員の指導を受けることによって、より幅広い視点から深めていく。	各学生が自らの研究をさらに深めるために国際学の観点から考察し、分析・整理の方法を十分に理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	各学生が自らの研究をさらに深めるために国際学の観点から考察し、基本的な分析・整理の方法を理解できるようになる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
ジェンダーとリーダーシップ	国際学研究科目 共通科目	1	2	国際学が扱う様々な分野において、ジェンダーの問題はどのように認識され、分析されているのか。また、ジェンダーギャップのなかで、リーダーシップはどのように発揮されるのか。本講義では、主に輪講の形態をとって、グローバルかつ学際的な観点から、ジェンダーとリーダーシップの問題を取り上げ、比較を通して理解を深めることを目的とする。	授業で取り上げられた学問分野において、ジェンダーの問題はどのように扱われているのかを正確に理解し、各地域、学問分野間の比較を行うことができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・リーダーシップ）	授業で取り上げられた学問分野において、ジェンダーの問題はどのように扱われているのかをおおよそ理解し、基本的なレベルにおいて、各地域、学問分野間の比較を行うことができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・リーダーシップ）
日本近現代史の史料を読む	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	日本の近現代史（幕末～平成時代）に関するテーマについて、歴史資料読解を軸とする演習を行う。教員による指導とともに、学生の主体的取り組みを通じて日本近現代史についての分析と考察を深める。	講義の内容を十分に理解し、説明することができる。歴史資料を十分に読解するスキルを身につけることができる（異文化理解・多様性理解）。	講義の内容を理解し説明することができる。歴史資料を読解するスキルを身につけることができる（異文化理解・多様性理解）。
国際社会のなかの日本	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	日本の近現代社会の特質について高度な学識を修得し、説明できる能力を身につけることを目標とする。授業では、明治維新から平成時代までを対象とし、国際学の視点から政治・社会の諸問題についてを教員による講義とともに、学生が歴史資料を用いてプレゼンテーションおよびレポートの作成を行う。具体的にどのようなテーマを取り上げるかは、受講する学生の研究するテーマを勘案しながら、学期開始直後に決める。	日本の近現代社会の特質について、国際学の視点から歴史資料の読解を通じ、プレゼンテーションおよび論述する力を身につけ、高度な学識を修得することができる（異文化理解・多様性理解）。	日本の近現代社会の特質について、国際学の視点から歴史資料の読解を通じ、プレゼンテーションおよび論述する力を身につけ、一定の学識を修得することができる（異文化理解・多様性理解）。
中国史のなかの地方社会	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	英語文献を読み、清代の中国の社会について考察する。当時の土地所有のあり方を中心とした、専門的な内容の英語文献を、速く正確に読むこと、それをわかりやすく正確な日本語に翻訳すること、主要な論点を正しく把握したうえで、それに対する自分の意見を明確な文章で表現すること、自分の見解を証拠づける資料を提示できることなどを修得する。	中国史について書かれた英語のテキストを、専門用語や固有名詞などを含めて、適切な日本語に翻訳することができる。テキストに書かれている内容を、十分に理解することができる。テキストの内容を適切に要約して、わかりやすく報告することができる。テキストを十分に理解するのに必要な歴史的知識を十分にそなえている。テキストのテーマについての研究史を理解している。テキストのテーマについて、自分の見解を述べることができる。（異文化理解・多様性理解）	中国史について書かれた英語のテキストを、基本的に、日本語に翻訳することができる。テキストに書かれている内容を、基本的に、理解することができる。テキストの内容を要約して報告することができる。（異文化理解・多様性理解）
中国史のなかの官僚制	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	英語文献を読み、清代の中国の行政について考察する。官僚制の末端に位置した州・県の行政制度という専門的な内容の英語文献を、速く正確に読むこと、それをわかりやすく正確な日本語に翻訳すること、主要な論点を正しく把握したうえで、それに対する自分の意見を明確な文章で表現すること、自分の見解を証拠づける資料を提示できることなどを修得する。	中国史について書かれた英語のテキストを、専門用語や固有名詞などを含めて、適切な日本語に翻訳することができる。テキストに書かれている内容を、十分に理解することができる。テキストの内容を適切に要約して、わかりやすく報告することができる。テキストを十分に理解するのに必要な歴史的知識を十分にそなえている。テキストのテーマについての研究史を理解している。テキストのテーマについて、自分の見解を述べることができる。（異文化理解・多様性理解）	中国史について書かれた英語のテキストを日本語に翻訳することができる。テキストに書かれている内容を、基本的に、理解することができる。テキストの内容を要約して報告することができる。（異文化理解・多様性理解）
アジアの政治と変容する地域秩序	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	東アジアにおける地域秩序の変容に焦点を当て、とりわけ中華人民共和国の成立と展開、および分断国家（台湾）との関係性について、「政治」の視角を中心に考察していく。戦後国際政治の動向を理解した上で、新中国建国以降の主要な政治運動である「大躍進」・「文化大革命」（ならびに同時期の台湾での動向）に焦点を合わせ、当該期間に関する文献・資料、先行研究を踏まえて教員が講義を行う。また、演習形式も取り入れながら、諸問題について学生自身が分担を決めて調査を行い、その成果を発表する。	東アジアにおける地域秩序の変容について、とりわけ中華人民共和国の成立、分断国家（台湾）の発生とその展開を「政治」の視角から考察し、報告することができる。東アジアにおける政治と統治の仕組みを理解し、中国社会ならびに两岸関係の変容を分析する能力を持つことができる。（異文化理解・多様性理解）	東アジアにおける政治の仕組みを理解し、新中国建国以降の主要な政治運動に関する最低限の内容を説明することができる。（異文化理解・多様性理解）
現代アジアの構造変動とグローバル化	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	現代アジアの構造変動を理解する目的において、1970年代以降に開始された中国の改革・開放政策と、それによる経済発展がもたらした社会・地域変化を、グローバル化の展開に即して検討する。その際、台湾で生じた政治的変化が两岸関係および域内秩序に与える変化をもたらしたかなども含め、広く中華圏の社会における構造変動に焦点を当てて検討する。具体的には、改革・開放政策、台湾の民主化、香港返還、一路一帯構想などの課題について考察する。学生にも定期的に報告してもらい、変動し続ける两岸関係も注視しつつ将来の展望を試みたい。	現代アジアの構造変動を的確に理解し、改革開放後における現代中国社会および民主化後の台湾の構造変動について考察し、報告することができる。グローバル化と経済発展がもたらした社会変容および两岸関係の今後についても分析する能力を持つことができる。（異文化理解・多様性理解）	現代アジアの構造変動と改革開放後における現代中国社会および两岸関係をめぐる構造変動を理解し、グローバル化と経済発展がもたらした社会・地域秩序の変容に関する最低限の内容を説明することができる。（異文化理解・多様性理解）
グローバル・ヒストリーのなかのヨーロッパ	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	ヨーロッパの歴史は、ヨーロッパそれ自体のみを内面的に考察するだけではなく、世界の諸地域のつながりなかで捉える必要がある。本科目では、ヨーロッパの近現代史をより多面的かつ多角的に理解するため、グローバル・ヒストリーのアプローチから書かれた（英語を含む）文献の講義を行ない、関連するテーマのミニ・リサーチによってそれを深めることにする。	ヨーロッパ近現代史のグローバルな連関について、具体的な事例をふまえて適切に説明することができる。（異文化理解・多様性理解）	ヨーロッパ近現代史のグローバルな連関について、いくつかの側面について基本的な説明することができる。（異文化理解・多様性理解）
パブリック・ヒストリーとヨーロッパ	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	「パブリック・ヒストリー」とは、歴史教科書から博物館、歴史映画やドラマ、さらには再現イベントや地域おこしなど、歴史という営為のもつ社会的性格とその変化について考察する新たなアプローチである。本科目では、日本における同様の試みとの比較を念頭に、ヨーロッパにおけるパブリック・ヒストリーの諸側面について考察する。	「パブリック・ヒストリー」について正確に理解し、具体的な事例を分析することができる。（異文化理解・多様性理解）	「パブリック・ヒストリー」についておおよそ理解し、それに当てはまる事例について基本的な分析を行うことができる。（異文化理解・多様性理解）
多文化社会としてのヨーロッパ	国際学研究科目 国際エリア研究科目	1	2	国民国家によって成立していたヨーロッパの社会は、グローバル化、EU統合などの国境の相対化によって、また、第二次世界大戦後の旧植民地からの移民出身市民の増加によって、現代ヨーロッパ社会は大きく変化している。この授業は、現代ヨーロッパ社会が抱える諸問題について理解することを目標とする。現在のヨーロッパ社会にかんするおもに社会学の分野における古典的な文献講読を取り上げ、精読する。	ヨーロッパ社会に関連する古典的な文献を読みながら、テキストを批判的に読み、抽象的な理論を現実の社会と結びつけ、自分自身の議論を組み立てることができるようになる。（異文化理解・多様性理解）	ヨーロッパ社会に関連する古典的な文献を読みながら、テキストを批判的に読めるようになる。（異文化理解・多様性理解）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
空間論からみるヨーロッパ	国際学研究所 国際学系 国際学系	1	2	この授業は、人間の営みにより生み出された一つの文化地域としてのヨーロッパを総合的に分析し理解するための知識と技術を習得することを目的とする。近年のヨーロッパでは、国民国家の地位の相対的低下やグローバル化の進行により、国家の陰に隠れていた地域が顕在化したり、新たな地域間協力の枠組みが登場するなど、空間の再編成が進行中である。こうした現象を空間的視座から論じた資料を講読し、その内容について議論する。	1. 系統地理学の専門知識をもって、文化地域としてのヨーロッパを理論的に説明することができる。（異文化理解） 2. 近年のヨーロッパを取り巻く様々な変化を、空間論、地域論などの地理学の専門的知識を用いて、理論的に説明することができる。（多様性理解）	1. 系統地理学の最低限の知識をもって、文化地域としてのヨーロッパを一定程度説明することができる。（異文化理解） 2. 近年のヨーロッパを取り巻く様々な変化を、空間論、地域論などの地理学の最低限の知識を用いて、一定程度説明できる。（多様性理解）
移民国家アメリカの形成	国際学研究所 国際学系 国際学系	1	2	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、アメリカ社会とアメリカ人を分析する力を養うことを目標とする。授業では、第二次世界大戦から現代までの時代に焦点を合わせ、「アメリカ人である（になる）」ということとは、一体何だろうか。どのような意味ののだろうか。を考へる。アメリカ社会における所属機関、地域、階級、人種、民族、性などの複合的な因子が、歴史過程の中でどのように交錯、衝突、交流しながら、アメリカ人のアイデンティティが作られていくのかを分析する。	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、説明することができる。アメリカ社会の形成過程とアメリカ人意識が形成されてきた過程を分析することができるようになる。授業を通じて学んだ知識を活用してアメリカ社会についてのリサーチやレポート作成ができるようになる。（異文化理解・多様性理解）	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、基本的な事柄について説明することができる。アメリカ社会の形成過程とアメリカ人意識が形成されてきた基本的な過程を分析することができるようになる。授業を通じて学んだ知識を活用してアメリカ社会についての基本的なリサーチやレポート作成ができるようになる。（異文化理解・多様性理解）
グローバル時代のアメリカ	国際学研究所 国際学系 国際学系	1	2	「移民国家アメリカの形成」を踏まえて、履修者が専攻する地域の歴史や社会問題とアメリカの状況を比較・検討することを目標とする。アメリカ人の多様性を前提に、現代アメリカ社会におけるさまざまなメトリシティの権利闘争、女性運動、新保守とリベラルの対立、脱工業化社会における繁栄と貧困、グローバル化する世界とアメリカなどの問題を取り上げる。履修者が専攻する地域ではこれらの問題がどのような歴史的経緯で、どのような状況になっているのか、アメリカとの違いは何かを考へることによって、アメリカ社会の特異性と普遍性が再度、確認できるであろう。	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、履修者が専攻する地域の歴史的諸問題と比較して説明することができる。アメリカ人の多様性が形成されてきた過程を分析することができるようになる。授業を通じて学んだ知識を活用してアメリカ社会についてのリサーチやレポート作成ができるようになる。（異文化理解・多様性理解）	アメリカ社会の特異性と普遍性を歴史的に理解し、履修者が専攻する地域の歴史的諸問題と比較して基本的な事項を説明することができる。アメリカ人の多様性が形成されてきた過程をおおまかに分析することができるようになる。授業を通じて学んだ知識を活用してアメリカ社会についての基本的なリサーチやレポート作成ができるようになる。（異文化理解・多様性理解）
北米社会の史的展開と民主主義	国際学研究所 国際学系 国際学系	1	2	毎年、世界各地から多数の移民を受け入れている北米国家カナダを対象に、その民族的な多様性、および地域的な多様性が織り込まれた複雑な社会の統合原理を探り理解する。授業では、主に歴史学と政治学の文献を読み、カナダの統合原理に関する歴史学的な知識と政治学的な理論を着ける。その上で、今日におけるカナダ社会の実態と照らし合わせて、従来の研究に対する検証を試みる。	1. カナダの民族的・地域的多様性の実態を、歴史に触れながら説明することができる。2. カナダの統合原理について、歴史学的知識や政治学的理論をふまえて説明することができる。3. 授業を通じて身につけた批判的な検証能力を活かして、自身の研究テーマに関するレポートを執筆することができる。（異文化理解・多様性理解）	1. カナダの民族的・地域的多様性の実態を、歴史の基本的な事項に触れながら説明することができる。2. カナダの統合原理について、基本的な歴史学的知識や政治学的理論をふまえて説明することができる。3. 授業を通じて学んだ批判的な検証を、自身の研究テーマに関するレポート執筆において実践することができる。（異文化理解・多様性理解）
アメリカの政治文化	国際学研究所 国際学系 国際学系	1	2	アメリカの民主主義や民主主義一般に関する理論を理解し、さらに、このような分析枠組みから各自の研究対象にアプローチすることの意味や重要性について理解することを目標とする。その意味では、アメリカに際らず、比較政治的な視点から各国の政治・社会制度を分析する素養を養うことになる。授業では、まず民主主義がどのようなものとして捉えられてきたかについて理論的に検討する。そのうえで、アメリカ国内における民主主義の歴史的発展と現状について、様々な英文資料を活用しながら考察する。	民主主義理論に関する理解とアメリカの民主主義の実践に関する理解を深め、メディアや学術的文献で議論されているさまざまな国々の政治や社会のあり方について比較政治的、国際的な視点からつねに分析できるようにする。これに加えて、受講者の研究分野において、このような民主主義理論や比較政治・比較社会的枠組みから研究対象にアプローチすることがどのような意味を持つかを考察できるようにする。（異文化理解・多様性理解）	民主主義理論に関する理解とアメリカの民主主義の実践に関する理解を深め、メディアや学術的文献で議論されているさまざまな国々の政治や社会のあり方について比較政治的、国際的な視点からつねに分析できるようにする。（異文化理解・多様性理解）
アメリカ文化研究V (芸術)	国際学研究所 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	アメリカ合衆国の芸術は、どのようにその独自性を構築したか、あるいはしなかったのか。この点について、いわゆる「ハイ・モダニズム」に属するとされる美術作品および美術批評を具体的に検討することで、受講者各自が考察を深め、またそれぞれに一定の視座を獲得することを旨とする。とりわけ、ふたつの世界大戦を通じてヨーロッパの美術がどのようにアメリカに受容されたかを、いくつかの先行研究の精読と、この問題に関わる作品群を可能なかぎり見つけることで、具体的に明らかにする。	アメリカ合衆国による、「異文化」としてのヨーロッパ近現代美術受容について、具体的な美術作品と関連づけながら説明できるようになる。また、その政治的側面について、批判的に検討できるようになること。	アメリカ合衆国による、「異文化」としてのヨーロッパ近現代美術受容について、具体的な美術作品と関連づけながら説明できるようになる。また、その政治的側面について、最低限の批判的な検討ができるようになること。
アメリカ文化研究VI (芸術)	国際学研究所 国際文化系科目 アメリカ文化研究	1・2	2	1960年代はじめに登場し、視覚芸術におけるアメリカの優位性を確保するのに大いに寄与したとされるふたつの芸術動向、すなわちポップ・アートとミニマル・アートに焦点を当て、それぞれの具体的な作品とそれにかんする批評のなか、「アメリカの考えるアメリカ性」を浮き彫りにする。あわせてポップ・アートの後継として1980年代のシミュレーションズ、またミニマル・アートの後継として1970年代のコンセプチュアル・アートを指定することで、20世紀後半のアメリカ美術史の見取り図を作成することを試みる。	アメリカが1950年代におけるヨーロッパ近代美術という「異文化」の受容を経て、1960年代にアメリカ美術固有の表現言語＝ヴォキャブラリを確立するに至った過程について、英語原文から得た諸概念と具体的な作品とを関連づけつつ理解し、説明できるようになること。	アメリカが1950年代におけるヨーロッパ近代美術という「異文化」の受容を経て、1960年代にアメリカ美術固有の表現言語＝ヴォキャブラリを確立するに至った過程について、英語原文から得た諸概念と具体的な作品とを一定程度関連づけつつ理解し、説明できるようにすること。
アメリカ政治外交史	国際学研究所 国際学系 国際学系	1	2	20世紀以降のアメリカの対外関係及び国際関係に関する基本的な文献や一次史料を精読し、歴史上の重要な出来事やこれらの分野における研究上の論争に関する理解を深める。その際、単なるアメリカの対外政策の展開という観点からだけでなく、アメリカや他の世界との相互関係、グローバルな秩序の変動という観点からも国際関係の歴史を学ぶことにも重点を置く。	20世紀以降のアメリカの対外関係及び国際関係に関する幅広い基本的な知識を習得し、それらを踏まえて20世紀以降のグローバルな国際関係の歴史や現在の国際関係を分析できるようにする。さらに、自分の研究分野に関連する、アメリカの対外関係や国際関係に関するテーマで学術的な研究を行う。（異文化理解・多様性理解）	20世紀以降のアメリカの対外関係及び国際関係に関する幅広い基本的な知識を習得し、それらを踏まえて20世紀以降のグローバルな国際関係の歴史や現在の国際関係を相対的に分析できるようにする。（異文化理解・多様性理解）
日本の表象文化と近現代文学	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科	1	2	日本の言語文化の代表として、近代・現代の小説を取り上げる。内容・構成の分析、登場人物・舞台設定・時代背景の検討など、作品を詳細に読み解くことによって日本文化・言語文化の本質に迫る。	文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質を認識できる。文学が描く人間や社会背景の複雑なあり方を抽出・分析することができる。適切な分析方法を使って文学と現代社会の関係についてのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解）	文学のリアリティや表現力を理解し、言語文化の本質をある程度まで認識できる。文学が描く人間や社会背景の複雑なあり方の基礎的な抽出・分析ができる。分析方法を使って文学と現代社会の関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解）
世界の中の日本文化	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科	1	2	現代における日本文化は、古い伝統文化も新しいポップカルチャーも「世界」の注目を浴びる存在といえる。「世界」が特に注目する「日本文化」とは何か、日本独自の文化はどのようにして「世界」へ浸透していったのか、という問題を中心に「世界の中の日本文化」について探求する。	現代における日本文化について広い知識を持ち、その本質を理解している。（知識・理解）伝統文化も現代文化に対しても「世界」との関係に着目し、優れた分析・考察を行なうことができる。「日本文化」と「世界」との関係についての、優れたレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解）	現代における日本文化について知識を持ち、その本質をある程度まで理解している。日本文化と「世界」との関係に着目し、ある程度までの分析・考察を行なうことができる。「日本文化」と「世界」との関係についての、基本レベルのレポートを作成できる。（異文化理解・多様性理解）
日本語の多様性	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科	1	2	日本語を多様性という観点から考察する。世代やジェンダーによる違い、書き言葉と話し言葉の違い、表現媒体による違いなどの中からいくつかのトピックを選択し、講義と合わせて論文を読み進めながら考察を進める。	日本語の多様性を明らかにするための研究方法および先行研究の成果について高度な学識を修得し、適切な説明ができるようになる。（異文化理解・多様性理解）	日本語の多様性を明らかにするための研究方法および先行研究の成果について基本的な学識を修得し、説明ができるようになる。（異文化理解・多様性理解）
日本語研究と日本語教育	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科	1	2	日本語研究の成果を日本語教育にどのように生かしていくかを考察する。いくつかのテーマを取り上げ、日本語学の観点からどのような研究がされてきたかを確認したうえで、それがどのように教材化されるのか、講義と合わせて論文を読み進めながら考察を進める。	いくつかのテーマに沿って、日本語研究の方法とその成果を十分に理解し、得られた知見がどのように日本語教育に活用しうるかを具体的に説明することができる。（異文化理解・多様性理解）	いくつかのテーマに沿って、日本語研究の方法とその成果を理解し、得られた知見がどのように日本語教育に活用しうるかを説明することができる。（異文化理解・多様性理解）
中国の社会と言語形成	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科	1	2	「中国の文字改革運動」および「中国における共通語の成立過程」を取り上げ、19世紀末以降から現代までの中国の言語政策に関する文献を講読し、現代中国語の成り立ちや政策理念に関する知識を深める。また、日本における「国語改革」との比較の視点からも検討する。	近現代中国の言語政策について十分に理解し、重要な事項について自分の見解を述べるることができる。（異文化理解・多様性理解）	近現代中国の言語政策について基本的な学識を修得し、重要な事項について説明できるようにする。（異文化理解・多様性理解）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標(成績評価A)	単位修得目標(成績評価C)
伝統と創造の中の中国の言語文化	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	ことばは社会の変化や文化などの影響を受けながら、常にその社会の現状を反映し、社会とともに変化していく。この授業では、改革開放期に生まれた新語・流行語を取り上げ、現代中国語の形成過程を考察しながら、言語文化の側面から新語の構造や造語法について修得する。	中国語の言語的的特性について理解を深め、これを例とともに説明できる。(異文化理解・多様性理解)	中国語の言語的的特性について認識し、これがある程度自分の言葉で説明できる。(異文化理解・多様性理解)
東アジアの芸術・映像に見る民族的特色	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	東アジアの芸術を、その時代の社会を映す鏡として捉え、その研究を通して東アジア地域の諸問題を考える姿勢、能力を涵養することを目標とする。授業では、古代以降の東アジアの書道の歴史や書論にかかわる文献資料や作品の画像資料によって、理解を深めてゆく。	1. 東アジアの書道史の概略について把握し、一定程度説明することができる。2. 個々の文献・作品の表現や構図の分析を通して作品のメッセージを読み取り、その成果をわかりやすく報告することができる。(異文化理解・多様性理解)	1. 東アジアの書道史の概略について把握し、その基本要素について説明することができる。2. 個々の文献・作品の表現や構図の分析を通して作品のメッセージを読み取り、一定程度の成果をあげることができる。(異文化理解・多様性理解)
東アジアの文学文化と異民族間交流	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	古代以来の東アジアの芸術として重要な位置を持つ書道に注目し、その研究を通して、欧米と異なる東アジアの感性を把握、東アジア特有の性格について見識を持ち、説明できるようになることを目標とする。授業ではいくつかの作例に即し、まずそれぞれの題材、書法、表現の特徴を分析し、そこから東アジアの性格とその特色について、概略をつかむ。ついで学生自身が同様の分析と考察を行い、レジュメを作成して報告する。	1. 古代以来連続と続く東アジアの書道の普遍的・持続的要素を把握することができる。2. 東アジア特有の時代を超えた美意識・価値観について一定の見識を持ち、それをわかりやすく説明できる。3. 関連の資料を効率よく探索し、わかりやすいレジュメにまとめることができる。(異文化理解・多様性理解)	1. 古代以来連続と続く東アジアの書道の普遍的・持続的要素を把握することができる。2. 東アジア特有の時代を超えた美意識・価値観について一定の見識を持ち、その基本的要素を説明できる。3. 関連の資料を探索し、レジュメにまとめることができる。(異文化理解・多様性理解)
ヨーロッパ文化研究V(芸術)	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1・2	2	視覚的に表現されたもの(イメージ)を文化史や社会史の枠組みでとらえることの意味を理解し、長い歴史をもつ美術史を土台にしつつ現代における表象を通してその文化的状況を判断する力を涵養することを目標とする。この授業では、ヨーロッパの美術史の基礎を成す美術理論の基本的文献講読を行い、図像の意味、解釈、表現様式、主題についてなど美術作品をさまざまな角度から分析する方法を学ぶ。その上で、学生が各自具体的な表象を選んで課題に取り組み、授業時に報告をする。	ヨーロッパの文化を理解する方法として美術史を通して視覚的に表現されたものを考察する学問的方法論を学び、造形表現によって文化論を十分論理的に展開できるようにする。	ヨーロッパの文化を理解する方法として美術史を通して視覚的に表現されたものを考察する学問的方法論を学び、造形表現によって文化論を展開できるようにする。
ヨーロッパ文化研究VI(芸術)	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1・2	2	近現代の表象文化を手掛かりにして、言葉によらない表現形式を読み取る方法と力を涵養する。特にイメージが積極的にポリティカルに利用された時代や事象を取り上げ、イメージがもつ言葉を超えて人々に伝えるメッセージの力を理解するために、特に顕著な例を取り上げて分析する。時代的には20世紀を対象として、その芸術活動及び芸術批評に大きな影響を与えた世紀初頭の主要な芸術活動を通じて時代的・地域的背景を踏まえて考察する。	近現代の表象文化を手掛かりにして、言葉によらない表現形式を正確に読みとく方法と力を涵養する。	近現代の表象文化を手掛かりにして、言葉によらない表現形式を読みとく方法と力を涵養する。
フランス語圏の実践的異文化コミュニケーション	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	この授業は、フランス語圏とその実践的異文化コミュニケーションを総合的に分析し理解するための知識と技術を習得することを目的とする。フランス語圏は、フランス植民地主義を背景に生まれたが、植民地独立を契機に国際社会の重要なコミュニケーション言語となった。さらに、近年ではフランス語やフランコフォニー文化に共鳴する人々が自由に関与する空間と捉えられ、多様性擁護といった普遍的理念との結びつきを深めている。こうした現象を社会的視点から論じた資料を精読し、その内容について議論する。	1.社会学の専門知識をもって、フランス語圏とその実践的異文化コミュニケーションを理論的に説明できる。(異文化理解) 2.近年のフランス語圏とその実践的異文化を取り巻く様々な変化を、社会学の専門知識を用いて理論的に説明できる。(異文化理解・多様性理解)	1.社会学の知識をもって、フランス語圏とその実践的異文化コミュニケーションを一定程度説明できる。(異文化理解) 2.近年のフランス語圏とその実践的異文化を取り巻く様々な変化を、社会学の専門知識を用いて一定程度説明できる。(異文化理解・多様性理解)
ドイツ言語文化の歴史と個性	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	ドイツ語は、EU(ヨーロッパ連合)のなかで最も母語話者の多い言語であると同時に、そのなかのバリエーション、とりわけ地域的多様性も豊富な言語である。このことの歴史的背景、形成過程や現在の意味について、関連文献の講読をもとに理解を深める。	ドイツ語の形成過程と多様性、現状について、具体的な事例をもとに正確な説明を行うことができる。(異文化理解・多様性理解)	ドイツ語の形成過程と多様性、現状について、基本的な説明を行うことができる。(異文化理解・多様性理解)
イギリスの社会と言語文化	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	応用言語学、特にイギリスのIELTS等における言語教育評価研究に必要な言語理論の深い理解および分野横断的な研究に必要な2つのアプローチ(質的研究と量的研究)を実践的に学ぶ。この授業では、言語教育評価研究の中でも特に言語テスト研究の基礎となる言語習得理論や言語指導法を体系的に学ぶ。また多様な言語状況を多角的に考察し論理的に分析するための研究アプローチを実践的な演習を通じて学ぶ。	IELTS等の言語テスト研究および言語教育評価研究に必要な言語習得理論や言語指導法について批判的に検証できる。(異文化理解) 1多様な言語状況を多角的かつ論理的に分析するための実践的な研究アプローチを習得している。(異文化理解・多様性理解)	IELTS等の言語テスト研究および言語教育評価研究に必要な言語習得理論や言語指導法について説明できる。(異文化理解) 1多様な言語状況を多角的かつ論理的に分析するための基本的な研究アプローチを習得している。(異文化理解・多様性理解)
ポストコロニアル理論でみる英語圏の言語文化	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	大英帝国による植民地支配以降、「西洋」において形成され現在まで流通する「世界観」を、特に近代以降のイギリス・アイルランド・オーストラリアにおいて言語によって展開されている文化状況について批判的に検証しうる人材を養成することが目標である。この授業では、ポストコロニアル主義の代表的な理論および分析方法をイギリス・アイルランド・オーストラリアにおける文化的現象や制度の実践的分析演習を通じて習得する。	1近代以降のイギリス・アイルランド・オーストラリアにおいて言語によって展開されている文化状況について批判的に検証できる。(異文化理解) 1ポストコロニアル主義の代表的な理論を理解し、分析方法を用いてイギリス・アイルランド・オーストラリアにおける文化的現象や制度について批判的に分析できる。(異文化理解・多様性理解)	1近代以降のイギリス・アイルランド・オーストラリアにおいて言語によって展開されている文化状況について説明できる。(異文化理解) 1ポストコロニアル主義の代表的な理論を理解し、分析方法を適切に用いてイギリス・アイルランド・オーストラリアにおける文化的現象や制度について分析できる。(異文化理解・多様性理解)
アメリカ英語の多様性—地域・人種・社会方言	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	アメリカの言語文化に関して書かれた基礎的文献を精読し、アメリカの言語文化の多様性を考察する。その上で、アメリカの代表的な表象文化を取り上げ、現代のアメリカ社会において多様な文化的アイデンティティがどのように構築されてきたかを言語文化の側面から通時的かつ共時的に分析・検証する。これにより、現代のアメリカの諸問題に関して、理論的、体系的に理解を深めることができる。	英語文献を正確に読み取り、的確に理解する力を身につける。その上で現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点を当てて検討し、アメリカの言語文化に関する体系的な知識を獲得できる。(異文化理解・多様性理解)	英語文献を読み取り、全体の要旨を理解する力を身につける。その上で現代のアメリカ社会や文化の諸問題について、言語文化に焦点を当てて検討し、アメリカの言語文化に関する基礎的な知識を獲得できる。(異文化理解・多様性理解)
北米の言語・文化とアイデンティティ	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	カナダは、英語とフランス語の二言語を公用語としているが、公的な文化は認めず、国内のあらゆる文化は等しく尊重されるべきとする多文化主義を採用している。そうした中で、カナダ、およびカナダ人とは何か、また、国民としてのアイデンティティはどのように形成されてきたのだろうか。授業では、カナダにおける言語や文化の歴史的な展開に注目しながら、これらの問題を検討する。	1. カナダの二言語・多文化主義とは何かを説明することができる。 2. カナダにおける言語や文化の実態を、その歴史的な展開に触れながら説明することができる。3. 言語・文化との関係で、カナダ、カナダ人、およびそのアイデンティティについて説明することができる。(異文化理解・多様性理解)	1. カナダの二言語・多文化主義とは何かを説明することができる。 2. 今日のカナダにおける言語や文化の実態を説明することができる。3. 言語・文化との関係で、カナダ、カナダ人とは何かを説明することができる。(異文化理解・多様性理解)
国際語としての英語	国際学研究所 国際コミュニケーション研究科目	1	2	国際コミュニケーションの手段として世界各地で使用されている国際共通語としての英語(World Englishes)に関する高度な学識を身につけることを目標とする。英語は母語話者の英語のENL(English as a Native Language)、公用語、第二言語としての英語のESL(English as a Second Language)、そして国際コミュニケーションの手段としての英語のEIL(English as an International Language)に分類できる。これらは背景となる民族・文化・社会の影響により多様な変種を持っている。この授業では、歴史的観点、民族・文化的観点、言語変種としての観点などから英語の多様性に関する様々な問題について考察し、さらに日本における英語活用の方法や方向性、そして今後の展望などについて研究する。	国際共通語としての英語についての高度な知識を身につけ、異文化の人々と円滑に交流する能力を獲得できる。(異文化理解・多様性理解)	国際共通語としての英語についての基礎的な知識を身につけ、異文化の人々と交流する能力を獲得できる。(異文化理解・多様性理解)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
グローバル秩序の形成と維持	国際学研究所 国際グローバル研究科 国際グローバル研究科	1	2	国際関係論の英語研究文献を輪読し、国際関係の理論と実態に関する学識を深め、国際社会の秩序について分析する基礎能力を習得する。まず、国際社会における主権国家等の行動主体の特徴と様々な行動主体の相互関係について考察し、国際秩序・地域秩序を形成する原理・原則や規範について論じる能力を身につける。次に、様々な国際組織や国際制度、対外政策の形成などに関する理論について学び、具体的な事例から課題を見出し、解決策を考察する技法を習得する。	1. 国際関係論の英語研究文献を批判的に読み解き、自分の考えを述べる事ができる。2. 国際関係の具体的な事例から解決すべき課題を見だし、解決法を考察することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	1. 国際関係論の英語研究文献を正確に読み解くことができる。2. 国際関係の具体的な事例から解決すべき課題を見出すことができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
グローバル社会における紛争解決	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	グローバルな国際社会で生じる様々な紛争について、その要因、構造、過程を明らかにしつつ、紛争解決の手法を学び、解決策を考える知的訓練を行う。	グローバル社会における紛争の内容に基づき、その要因や構造に則した解決策を具体的に列挙しながら、分析できる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	グローバル社会における紛争の内容に基づき、その要因や構造に則した解決策の方向性を示しながら、分析できる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
グローバル秩序の歴史	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	今日の国際社会の基礎となっているグローバル秩序を構成する諸概念、諸原則がどのように形成されて、どのように運用されてきたかについて歴史的に考察する。	今日のグローバル秩序について、先行研究の主要な論点を明らかにしたうえで、基礎概念や原則について正確に説明することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	今日のグローバル秩序について、先行研究に言及しつつ、基礎概念や原則について説明することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
外交とステイトクラフト	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	伝統的な外交交渉だけでなく、軍事的手段や経済的手段を含め、広く国家が行う国益追求のための活動（ステイトクラフト）の様々な手法について、事例研究を行う。	外交交渉や様々なステイトクラフトの手法について、先行研究の主要な論点を明らかにしたうえで、代表的な事例を挙げながら説明することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	外交交渉や様々なステイトクラフトの手法について、先行研究に言及しながら、事例を挙げて説明することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
国際システム研究Ⅳ（経営）	国際学研究所 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	高度の専門性を要する国際ビジネスに必要な財務・会計に関する学識を授けつつ、それらの基礎・応用能力を培うことを目標とする。授業では、財務分析・企業会計に関するコアを固めた後、国際ビジネスにおける近年の変化や動向を踏まえ、国際会計基準・M&A・信用格付など、企業の国際化に伴い重要性が増している事項についての知識を習得させる。また、事例研究などを通して国際ビジネスにおける財務・会計についての理解を深めさせると同時に、それらに対する思考方法の発展を促す。	国際ビジネスに必要な財務・会計について理解でき、専門的な分析ができるようになる。近時重要性を増すビジネス・イシューへの理解と事例研究等を通じ、世界的な経営環境の変化に伴う、わが国企業の国際展開を検討できるようになる。	国際ビジネスに必要な財務・会計について基礎的理解ができるようになる。（知識・理解）
国際システム研究Ⅴ（経営）	国際学研究所 国際社会系科目 国際システム研究	1・2	2	高度の専門性を要する国際ビジネスに必要な経営戦略に関する学識を授けつつ、それらの基礎・応用能力を培うことを目標とする。授業では、経営戦略に関するコアを固めた後、ビジネス展開の近年の変化（特にグローバル化や情報化）を踏まえ、経営戦略についての高度な知識を習得させる。また、ビジネス・モデル、経営分析、経営の情報化などについての理解を深めさせると同時に、事例研究などを通して国際ビジネスに対する思考方法の発展を促す。	理論の持つ有効性と限界を把握することができるようになる。同時にケース分析をする上でのスキルならびにコンセプト導出の方法を使いこなせるようになる。	理論の持つ有効性を知り、ケース分析をさまざまな方法で行えることを理解する（知識・理解）
グローバル化時代の経済諸課題	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	グローバル化が進む経済における問題、特に国際経済学（国際貿易、国際金融）に関連する問題を考察する力を培うことを目標とする。経済学の文献購読を通して、経済理論や統計的分析手法を理解し、問題を経済学的に分析する力を習得する。	グローバル化が進む経済に関する知識、経済問題を分析する上での手法を習得し、応用できる。経済理論を用いて、経済問題を考察することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	グローバル化が進む経済に関する知識、経済問題を分析する上での手法を習得する。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
グローバル化時代の社会諸課題	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	グローバル化が進む経済におけるさまざまな社会問題（例えば、労働、環境、教育、人口など）について、国内外の具体的な事例を取り上げ、データも活用しながら、経済学的な観点から考察、分析する力を習得する。	国内・国際社会の諸課題について、経済学的な観点から、発展的に考察し論じることができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	国内・国際社会の諸課題について、経済学的な観点から、考察し論じることができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
経済開発の理論と実践	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	アジアやアフリカ、ラテンアメリカ等諸地域における発展途上の経済開発に関する理論的研究と実践の能力を涵養することを旨とする。経済開発論・開発経済学の諸理論と、経済発展や開発援助政策の実践面に関する深い理解を図る。大学院レベルの専門書や雑誌論文等の講読や講義をもとにして、修士課程水準の開発経済学に関する深い理解と、これに基づく関連分野の論文の読解・執筆に足る分析能力・知識を涵養する。	グローバルに見た途上国の経済成長・経済発展について、科目で取り扱われた理論やモデル、分析手法を高い水準で体得している。大学院水準のモデル分析やゲーム理論等における理論運用能力を高い水準で身に付けている。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	グローバルに見た途上国の経済成長・経済発展について、科目で取り扱われた理論やモデル、分析手法を体得している。大学院水準のモデル分析やゲーム理論等における理論運用能力を身に付けている。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
経済開発の実証アプローチ	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	アジアやアフリカ、ラテンアメリカ等諸地域における発展途上の経済開発に関する諸経験や援助セクターによる援助政策や政策的介入の実施、その開発にもたらす効果の測定など、経済開発研究の実証アプローチの研究能力を涵養する。セクター別課題や政策的介入等を取り上げた実証研究の輪読や分析手法の学習により、修士課程水準の開発経済学に関する深い実証面での理解と、これに基づく関連分野の論文の読解・執筆に足る分析能力・知識を涵養する。	セクター別課題や政策的介入等を取り上げた実証研究の諸手法について深く理解している。大学院水準の開発経済分析に必要な解析的手法を深く身に付けている。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	セクター別課題や政策的介入等を取り上げた実証研究の諸手法について理解している。大学院水準の開発経済分析に必要な解析的手法を身に付けている。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
グローバル commons の国際公共政策史	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて理解する。持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化というグローバル commons をめぐる科学と対策の主要な争点について、自分なりの判断ができる力を身に付ける。地球温暖化対策の社会科学をめぐる理論の基本を理解する。関連の英語文献を、英語で読む力を身に付ける。	持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて十分説明できる。持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化というグローバル commons をめぐる科学と対策の主要な争点について、自分なりの判断を十分できる力を示せる。地球温暖化対策の社会科学をめぐる理論の基本を十分説明できる。関連の英語文献を、英語で読む力が十分に付いていることを示せる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	持続可能な開発の概念を、それが先進国と開発途上国のコンセンサスとなるに至った経緯を含めて最低限の説明できる。持続可能な開発に向けた開発における最大の課題である地球温暖化というグローバル commons をめぐる科学と対策の主要な争点について、最低限できる力を示せる。地球温暖化対策の社会科学をめぐる理論の基本を最低限説明できる。関連の英語文献を、英語で読む力が最低限身に付いていることを示せる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
サステナビリティの国際公共政策	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	サステナビリティをめぐる内外の課題や取組みを一つまたは複数取り上げて、必要に応じて外国語の文献も活用しながら、社会科学的分析とともに自分なりの考察を盛り込んだ政策提言の発表またはレポート作成を行う力を身に付ける。	研究テーマとして選んだサステナビリティをめぐる内外の課題や取組みについて、必要に応じて外国語の文献も活用しながら、社会科学的分析に基づき分析および自分なりの考察を十分盛り込んだ、政策提言の発表またはレポート作成を行うことができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	研究テーマとして選んだサステナビリティをめぐる内外の課題や取組みについて、必要に応じて外国語の文献も活用しながら、社会科学的分析に基づき分析および自分なりの考察を最低限盛り込んだ、政策提言の発表またはレポート作成を行うことができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
和解と平和構築	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	紛争地域の国家の再建に関わる平和構築活動における、政治・治安・司法・経済・人道部門の具体的な再建手法から、国家・社会内部の対立の和解プロセスへの協力までを考察する。	平和構築の諸活動について、各部門の再建手法を、代表的な事例を引きつつ、実行段階での留意点を踏まえて、説明できる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	平和構築の諸活動について、各部門の再建手法の基本的な内容を説明できる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
尊厳と人間の安全保障	国際学研究所 国際グローバル研究科	1	2	人間に対する脅威に総合的に取り組む「人間の安全保障」の諸課題を考察する。この概念の形成過程を学んだうえで、開発援助や平和構築のなかで、個人の尊厳をいかに守っていくかについて、専門家知見に学びながら、実践的な知識を身につける。	人間の安全保障について、その基礎概念を踏まえて、取り組むべき課題に合った実践方法について、代表的な事例の評価を行いつつ、説明することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	人間の安全保障について、その基礎概念を踏まえて、取り組むべき課題に合った実践方法について、事例を挙げて説明することができる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
Key Perspectives in Sustainability	国際学研究所 GSE科目	1	2	歴史的および現代的な観点から、持続可能性に関する英語での知識を深めることを目的とし、持続可能な開発に関する主要な理論や概念についての情報を提供する。この科目を通して、学生は批判的思考スキルを適用する方法を学び、オーラルとライティングの両方で効果的に英語でコミュニケーション能力を身に付けることができる。	人口、エネルギー、環境変化、公共政策など、サステナビリティの理論と実践の主要分野について、英語で高いレベルの知識を獲得する。また、英語によるオーラルとライティングでの効果的なコミュニケーションができるようになる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	人口、エネルギー、環境変化、公共政策など、サステナビリティの理論と実践の主要分野について、基本的なレベルの知識を英語で獲得する。さらに、基本的な英語のオーラルとライティングによるコミュニケーションができるようになる。（社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標 (成績評価A)	単位修得目標 (成績評価C)
Principles of International Relations	国際学研究科 GSE科目	1	2	国際関係の分野を英語で考察し、学生は概念と理論を十分に身に付けることができる。また、これらの概念や理論に基づいて、様々な角度から国際問題を分析し、国際社会が抱える問題をより深く理解することを目指す。	国際関係分野における主要な理論を理解し、説明できる高度な英語能力を有している。外交政策の意思決定プロセスについて、主要な理論や具体的な事例に基づいて分析し、高レベルのレポートを英語で作成することができる。(異文化理解・多様性理解)	国際関係論の主要な理論を理解し、説明できる基礎的な英語力を身に付けている。外交政策の意思決定プロセスについて、主要な理論や具体的な事例をもとに分析し、基本的なレベルのレポートを英語で作成することができる。(異文化理解・多様性理解)
Theory and Practice in Global Business	国際学研究科 GSE科目	1	2	この科目の目的は、現代のビジネス上の問題や傾向を英語で確認し、分析することにある。学生は、国際的な企業に関する様々な問題について、どのように評価し、結論を出すかについての知識を身につける。現代のビジネス問題を評価するための批判的思考スキルの応用、および英語でのオーラルおよびライティングでの効果的なコミュニケーション方法を習得する。	現代のビジネス問題を評価し、様々な問題に対して効果的な解決策を適用する高い能力を英語で実証することができる。さらに、効果的な専門的発表を準備し、英語での研究論文の執筆を通じて、そのテーマに関する専門知識を証明できる。(異文化理解・多様性理解)	現代のビジネス問題を評価し、様々な問題に対して効果的な解決策を適用するための基本的な能力を英語で実証することができる。さらに、専門的な研究の基本的なプレゼンテーションを準備し、英語での研究論文の執筆を通じて、トピックの基本的な理解力を証明できる。(異文化理解・多様性理解)
A Dynamic Europe in Transformation	国際学研究科 GSE科目	1	2	第二次世界大戦の終結以降に、ヨーロッパで起こった政治的・社会的な変化について考察する。これまでに起こった変化を分析し、今後ヨーロッパで起こりうる展開について考察することを指導する。	1945年以降のヨーロッパの変化と今後起こりうるヨーロッパの発展について、英語で詳細に分析・記述できる十分な能力を示すことができる。(異文化理解・多様性理解)	1945年以降のヨーロッパの変化と今後起こりうる展開について、基本的な理解を獲得する。また、これらの変化を基本的なレベルで英語で説明できるようになる。(異文化理解・多様性理解)
Experiences of Asia in International Society	国際学研究科 GSE科目	1	2	グローバルな世界におけるアジアを考察する。アジアと世界のさまざまな地域との相互作用の拡大を、政治、経済、社会の観点から理解し考察する。ケーススタディを通じて、世界におけるアジア情勢を多角的に分析する。	国際社会におけるアジアを理解し、英語で説明できる十分な能力があることを示すことができる。アジア情勢について、様々な視点から英語で高度な分析ができる。(異文化理解・多様性理解)	国際社会におけるアジアを理解し、英語で説明できる基礎的な能力があることを示すことができる。アジア情勢について、様々な視点から基礎的なレベルの分析を英語で行うことができる。(異文化理解・多様性理解)
Harmony and Turbulence in the Americas	国際学研究科 GSE科目	1	2	米国を中心とするアメリカ大陸を学際的、複合的な視点から考察する。過去から現在までの幅広い社会的、文化的、政治的現象を検討される。この科目は、社会と文化がどのように変化しているかを分析し、アメリカ大陸の現代と将来の発展について検討する。	アメリカ大陸の社会・文化について英語で理解し、説明することができる。社会や文化がどのように変化し、なぜ変化するのかについて、英語で高度な分析ができる。(異文化理解・多様性理解)	アメリカ大陸の社会と文化について、英語で理解し説明できる基礎的な能力がある。社会や文化がどのように、またなぜ変化していくのか、基礎的なレベルの分析を英語で行うことができる。(異文化理解・多様性理解)
Education, Society, and Culture	国際学研究科 GSE科目	1	2	教育、社会、文化の関係を探求し、教育の歴史と目標について考える。世界の様々な地理的地域における教育で重要な様々なトピックを検討する。教育の目的や社会との関わりを理解することで、教育を深く理解し、理論と研究の確かな基礎のもとに、幅広いトピックに批判的に取り組むことを目指す。	教育・社会・文化の関係を理解し、英語で説明できる。教育に関する様々なトピックを英語で高度に分析することができる。(異文化理解・多様性理解、社会の仕組みの理解)	教育・社会・文化の関係を理解し、英語で説明できる基礎的な能力がある。教育に関する様々なトピックについて、基礎的なレベルの分析を英語で行うことができる。(異文化理解・多様性理解、社会の仕組みの理解)
Communication in a Global Era	国際学研究科 GSE科目	1	2	グローバル化時代におけるコミュニケーション学の実践を考察する。人間が国家、社会、文化の領域を超えてどのようにコミュニケーションをとるのかを明らかにすることより、理論と研究の確かな基礎に基づき、グローバルな世界で効果的にコミュニケーションをとる方法を習得することを旨とする。	コミュニケーション学がグローバル化によってどのような影響を受けているかを理解し、英語で説明できる十分な能力がある。コミュニケーションにおける社会・文化の影響を高いレベルで分析できる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	コミュニケーション学がグローバル化によってどのような影響を受けているかを理解し、英語で説明できる基礎的な能力がある。社会や文化がコミュニケーションに与える影響について、英語で基礎的なレベルの分析ができる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)
Inclusive Leadership for Diverse Societies	国際学研究科 GSE科目	1	2	この科目で学ぶことを想定しているリーダーシップは、多様な社会の中で、日本国内および世界各地の個人や組織との包括的な関わりを促進するために、個人レベルでの自己認識と知識を深めることを目的としている。この科目を履修することで、学生は、自分が個人として、また社会の積極的な一員として生きたいと願う人生の包括的なリーダーとなりうる力を身につける。	多様性と包括性の概念を理解し、英語で説明できる十分な能力を示すことができる。個人の偏見、価値観、態度、行動についての十分な自己省察能力を獲得する。(多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ)	多様性と包括性の概念を理解し、英語で説明できる基礎的な能力を示すことができる。個人の偏見、価値観、態度、行動についての自己省察能力を獲得する。(多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ)
Special Topics in Global Studies	国際学研究科 GSE科目	1	2	この科目は、グローバル・スタディーズの分野における特定のいくつかのトピックを検証する。教員の専門知識やグローバル・スタディーズにおける理論、研究、実践の変化に基づいてトピックは設定される。	グローバル・スタディーズの分野を英語で理解し、説明できる十分な能力がある。グローバル・スタディーズに関連する様々なトピックを英語で高いレベルで分析できる十分な能力を獲得する。(異文化理解・多様性理解・問題発見・分析・解決)	グローバル・スタディーズの分野を英語で理解し、説明できる基礎的な能力がある。グローバル・スタディーズに関連する様々なトピックを英語で分析する基礎的な能力を獲得する。(異文化理解・多様性理解・問題発見・分析・解決)
日本語表現法Ⅰ (口語表現)	国際学研究科 関連科目	1	2	大学院での研究活動を円滑に進めるために、口頭発表の聞き取りと、発表、質疑応答の仕方を身につける。	外国人留学生在が日本語で口頭発表を行う際に必要とされる技能を十分に修得している。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	外国人留学生在が日本語で口頭発表を行う際に必要とされる技能を概ね修得している。(異文化理解・問題発見・分析・解決)
日本語表現法Ⅱ (文章表現)	国際学研究科 関連科目	1	2	学術的文章の書き方を段階的に学ぶために、論文の各部分の構成要素、それぞれの構成要素に見られる文型・表現・基本的ルール、そして、それらによって構築される典型的な文章の展開パターンを学習し、日本語で論文を書く際の論文の組み立て方、論文を書くための知っておかなければならない規則を身につける。	外国人留学生在が日本語で論文を執筆する際に必要とされる技能を十分に修得している。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	外国人留学生在が日本語で論文を執筆する際に必要とされる技能を概ね修得している。(異文化理解・問題発見・分析・解決)
中国語表現法Ⅰ	国際学研究科 関連科目	1	2	中国語表現の特徴を学ぶことによって中国語的確な読解力、表現力を習得することを目標とする。授業では文学作品、新聞・雑誌、論文など多様な教材を用い、それらの翻訳や漢字による表現の検討を通して日中両国の言語の特色について考える。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。かつ、中国語と日本語の文法的特質が考察できる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)
中国語表現法Ⅱ	国際学研究科 関連科目	1	2	対照研究の視野で日中語彙交流の歴史を考察するとともに、日本語由来の外來語の表現形式を時代ごとに考察し、日中両国の言語の特性について検討する。	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。かつ、言語習得上の相違がコミュニケーションに及ぼす影響について考察できる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	中国語と日本語の表現の相違を学び、関連する問題が指摘できるようになる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)
英語表現法Ⅰ	国際学研究科 関連科目	1	2	この授業は、英語で調査や研究の成果を発表し、的確に伝達できる能力を養うことを目標とする。授業では、受講生の専門とする分野や地域に関する英語論文の読み方や、自分の考えを英語で論理的に伝達するために多用される表現を学びながら、それぞれの研究テーマを説明し、調査や研究の結果を報告する。また、報告者の報告に基づいてクラス討論も行うことで、英語による討論の方法や表現法なども習得し、効果的な討論ができるように様々な訓練を行う。期末には、各々の研究を纏めた英文レポートを提出することが求められる。授業は英語で行われる。	口頭および文章によって学術的な考察を英語で表現することができるようになる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	口頭および文章によって学術的な考察を英語で基本的なレベルにおいて表現することができるようになる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)
英語表現法Ⅱ	国際学研究科 関連科目	1	2	「英語表現法Ⅰ」を踏まえ、口頭でも文章でも英語で発信できる能力を養成することを目標とする。授業では、より豊かな語彙力や表現力を身につけるために、英文資料・文献の多読を促しつつ、プレゼンテーションの方法や英文要旨の書き方、英語論文の作成法などについても指導する。受講生は、各々が専門とする分野や地域に関する研究テーマについて書かれた英語資料・文献を読み、その内容について報告を英語で行う。また、授業では、各報告に基づいて英語によるクラス討論も行い、高度な英語表現能力を身につけるように様々な訓練を行うこととする。	会話および文章の英語を使って自分の考えを正確に伝えることができるようになる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)	会話および文章の英語を使って自分の考えをおおよそ正確に伝えることができるようになる。(異文化理解・問題発見・分析・解決)

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
フランス語表現Ⅰ	国際学研究科 関連科目	1	2	この授業では、フランス語によって専攻分野の研究を行い、その結果を発信する能力を養うことを目標としている。この授業では、フランス語の雑誌や新聞の記事、諸統計、論文などの研究資料を教員が指定し、あるいは学生が持ち寄り、プレゼンテーションやディスカッションを行う。学生の専門とする分野や地域に関する用語や多用される表現に触れ、それらを使用することによって、フランス語による高度で専門的な表現力の訓練を行う。	フランス語によって専攻分野の研究を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、その結果を発信する能力を身に付ける。（異文化理解・問題発見・分析・解決）	フランス語によって専攻分野の研究を行い、自分なりの方法で、その結果を発信する能力を身に付ける。（異文化理解・問題発見・分析・解決）
フランス語表現Ⅱ	国際学研究科 関連科目	1	2	この授業では、「フランス語表現Ⅰ」を踏まえ、フランス語によって専攻分野の研究を行い、その結果を発信する能力を養うことを目標としている。フランス語によって専攻分野の研究を行い、口頭でも文章でも、フランス語で研究成果を発信する能力を養うことを目標とする。授業では、より豊かな語彙や表現力を身に付けるために、フランス語の雑誌や新聞の記事、諸統計、論文などを多読しつつ、プレゼンテーションやフランス語作文などを指導する。	フランス語によって専攻分野の研究を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、専門的な語彙や表現力を用いてその結果を発信する能力を身に付ける。（異文化理解・問題発見・分析・解決）	フランス語によって専攻分野の研究を行い、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、その結果を発信する能力を身に付ける。（異文化理解・問題発見・分析・解決）
インターンシップ	国際学研究科 関連科目	1・2	2	授業は教員および学園が紹介し、相手の企業・団体との許可を得て、実習を実施する。その内容は、相手の企業・団体からの報告書、および当人の報告書において記載させるとともに、実施後、報告会を開催して報告させる。	国際学について高度な学識を獲得させるため、実際の現場で仕事を体験することを通じて、国際的諸問題の所在、対応策について理解を大いに深め、研究への意欲を高めることを目標とする。（多様性理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ）	国際学について高度な学識を獲得させるため、実際の現場で仕事を体験することを通じて、国際的諸問題の所在、対応策について理解を深め、研究への意欲を高めることを目標とする。（多様性理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ）
フィールドワーク	国際学研究科 関連科目	1・2	2	学生は事前に、調査の目的、調査の方法、調査先などを記した現地調査計画を提出する。それに基づいて教員が適宜指導し、教員の承認の下に、1週間程度の現地調査を実施する。実施後、学生は、調査内容とその結果について必要事項を記載した報告書を教員に提出し、承認を得る。	地理学や社会学や文化人類学などのディシプリンにおいて、現代の社会や文化を研究するのに不可欠なことのできないフィールドワークの技法について、実施しつつ身につけ、それにより種々の調査が十分な正確さをもってできるようになることを目標とする。（異文化理解・多様性理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ）	地理学や社会学や文化人類学などのディシプリンにおいて、現代の社会や文化を研究するのに不可欠なことのできないフィールドワークの技法について、実施しつつ身につけ、それにより種々の調査ができるようになることを目標とする。（異文化理解・多様性理解・問題発見・分析・解決・リーダーシップ）
フィールドワークII	国際学研究科 関連科目	1・2	2	学生は事前に、調査の目的、調査の方法、調査先などを記した現地調査計画を提出する。それに基づいて教員が適宜指導し、教員の承認の下に、1週間程度の現地調査を実施する。実施後、学生は、調査内容とその結果について必要事項を記載した報告書を教員に提出し、承認を得る。	「フィールドワークI」を踏まえ、さらに1週間程度の現地調査を行うことによって、フィールドワークの実践力をいっそう高め、研究や修士論文執筆に役立たせることを目標とする。	「フィールドワークI」を踏まえ、さらに1週間程度の現地調査を行うことによって、フィールドワークの実践力を高め、研究や修士論文執筆に役立たせることを目標とする。
国際文化交流研究I（文化政策）	国際学研究科 関連科目	1・2	2	国際関係は、狭義の政治や経済に限定されるものではなく、そこにおいて文化が果たす役割も少なくない。このことは世界遺産を認定するユネスコのような国際文化機関についても当てはまるし、留学生受け入れ・交換や姉妹都市など広範な領域に及ぶ国際間や地域内の文化交流・教育政策やそれを支える社会組織についても言及できることである。本科目では、こうした文化交流を切り口とした国際関係の構築、制度や内実にかんして、具体的な事例を題材としてとりあげつつ考察する。	国際関係を文化交流の視点から分析し、文化政策の実態を研究して、さらに実践的に取り組むための力を養成することができるようになる。	国際関係を文化交流の視点から分析することができる（知識・理解）。文化政策について考察して、さらに実践的に取り組むための力を養成することができるようになる。
国際文化交流研究II（日本における外国人）	国際学研究科 関連科目	1・2	2	日本に居住する外国人が置かれている社会状況、あるいはその文化活動について考察し、文化交流の在り方を考える。具体的には、主に在日コリアン、在日中国人、在日日系ブラジル人を取り上げて考察する。日本にもっとも多い外国人の集団だが、この中には旧植民地の時代から在住している特別永住資格を持っている人々、日本人の子孫である日系人、留学などの目的で最近来日した人々などがあり、受入れのあり方は多様である。	国内において外国人とホスト社会である日本の社会がどのように向き合っているのか、日本の近代から現代にかけての専門的な知識をもとに理論的に説明できる。（知識・理解）	国内において外国人とホスト社会である日本の社会がどのように向き合っているのか、日本の近代から現代にかけての専門的な知識をもとに一定程度理論的に説明できる。（知識・理解）
国際コミュニケーション研究II	国際学研究科 関連科目	1・2	2	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を研究し、世界の人々と円滑なコミュニケーションを実現できる能力を身に付ける。授業では、国際協力や文化交流などにおける様々な状況会議、交渉から個人的関係まで一を想定し、そこに生じうる諸問題や課題について学習することにより、英語と地域言語との関係を踏まえつつ、コミュニケーションの成立あるいは不成立の状況を考察する。それと共に、一人ひとりの国際コミュニケーション能力を向上させる。	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を研究し、世界の人々と円滑なコミュニケーションを実現できる能力を養う。	国際的な場面において文化的背景が異なる人々がコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題や課題を理解する。
地域研究論I	国際学研究科 関連科目	1・2	2	私たちが取り巻く環境は、人間活動に様々な方法で関与し、時に恩恵を、そして時には被害を与える。そのため自然環境との共存は私たちの重要な課題となっている。この授業では、自然環境と人間活動との関係に注目し、両者の相互作用により生産される複合的な景観を理解するとともに、環境と景観に関する専門的知識を身に付ける。	1.人間と自然環境との様々な関係を自然地理学の専門的観点から十分に理解できるようにする。（知識・理解） 2.様々な自然環境の成り立ちを、自然地理学の専門的知識によって理解のかつ合理的に説明できるようにする（知識・理解）。	1.人間と自然環境との特定の関係を自然地理学的観点から一定程度理解できるようにする。（知識・理解） 2.特定の自然環境の成り立ちを、自然地理学の専門的知識によって一定程度説明できるようにする（知識・理解）。
地域研究論II	国際学研究科 関連科目	1・2	2	グローバル化の進行は、世界の諸課題をグローバルな視点から分析する重要性を私たちに認識させた一方で、国民国家などの既存の体制の再構築を促すことで、潜在的なローカルの重要性を再認識させた。この授業では、諸地域におけるローカルな差異、そしてそれぞれのローカリティの特徴、これらを理解するための専門的知識を習得する。	1.地域地理学に関する専門的知識を用いて多様な地域現象を理論的に説明できるようにする。（知識・理解） 2.様々な地域を地域地理学の専門的知識に準じて理論的に説明できるようにする。（知識・理解）	1.地域地理学に関する専門的知識を用いて特定の地域現象を一定程度説明できるようにする。（知識・理解） 2.いくつかの地域を地域地理学の専門的知識に準じて一定程度説明できるようにする。（知識・理解）
国際学演習I	国際学研究科 演習科目	1	2	研究テーマに関し研究文献を探索すること、そのうちの文献が基本となる研究文献であるか、また依拠すべき基本資料であるかを理解すること。こうして得られた基本となる研究文献、依拠すべき基本資料について、少しずつ学生が読み、それを毎回報告する。	研究テーマに関係する研究文献を調査収集し、基本となる文献について精確に理解できるようにする。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	研究テーマに関係する研究文献を調査収集し、基本となる文献について概要を理解できるようにする。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
国際学演習II	国際学研究科 演習科目	1	2	基本的には、「国際学演習I」の継続であるが、より速く多くの文献を読み進め、修士論文のテーマを固める。	「国際学演習I」を踏まえて、さらに十分に理解を深め、より多くの知見を修得できるようにする。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	「国際学演習I」を踏まえて、さらに理解を深め、多くの知見を修得できるようにする。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）

科目名称	科目区分	学年	単位数	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
国際学演習III	国際学研究科 演習科目	2	2	修士論文の作成に向けて、調査研究した内容を順次報告する。まだ構想が完成している段階ではないので、報告しつつ構想を練り直していく。7月下旬の修士論文構想発表会までに論文としてまとめるに足る構想を完成する。	修士論文の構想を完成させることができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	修士論文の構想を固めることができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
国際学演習IV	国際学研究科 演習科目	2	2	完成した構想に基づいて、論文を執筆していく。教員のコメントに対し、書き直すという過程を繰り返して、論文を完成させる。	「国際学演習III」を踏まえて、完成度の高い修士論文を書き上げることができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）	「国際学演習III」を踏まえて、修士論文を書き上げることができる。（異文化理解・多様性理解・社会の仕組みの理解・問題発見・分析・解決）
日本文化研究IV（社会）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	日本の現代社会の文化的特質について高度な学識を修得し、説明できる能力を身につけることを目標とする。授業では、第二次世界大戦後から高度経済成長期までを対象とし、文化的観点から社会の諸問題を取り上げ、教員が精深な講義を行うとともに、それに関係した事項について、学生が資料等を用いて説明する演習形式の授業も併せて行う。具体的にどのようなテーマを取り上げるかは、受講する学生の研究するテーマを勘案しながら、学期開始直後に決める。	1.日本文化について、その歴史や社会との関係等を的確に理解し、説明できる。（知識・理解・表現力） 2.授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本文化の歴史や社会との関係について、主体的かつ積極的に理解しようと努めている。（関心・意欲・態度）	1.日本文化について、その歴史や社会との関係等がある程度まで説明できる。（知識・理解・表現力） 2.授業中の課題や事前・事後学修に積極的に取り組み、日本文化の歴史や社会との関係について、ある程度までは理解しようと努めている。（関心・意欲・態度）
日本文化研究II（歴史）	国際学研究科 国際文化系科目 日本文化研究	1・2	2	日本の現代史（昭和戦後期～平成期）に関するテーマについて、歴史資料読解を軸とする演習を行う。教員による指導とともに、学生の主体的取り組みを通じて日本現代史についての分析と考察を深める。	講義の内容を十分に理解し、重要な事項について説明することができる。（知識・理解・表現）歴史資料を十分に読解するスキルを身につけることができる。（技能）	講義の内容を理解し説明することができる。（知識・理解）歴史資料を読解するスキルを身につけることができる。（技能）